

癩における踵骨の変形について

国立療養所多摩全生園

中 原 呉 郎
なか はら ご ろう

On the Deformation of Os calcis in Leprosy Patients. Goro NAKAHARA. National Leprosarium Tamazenshoen.

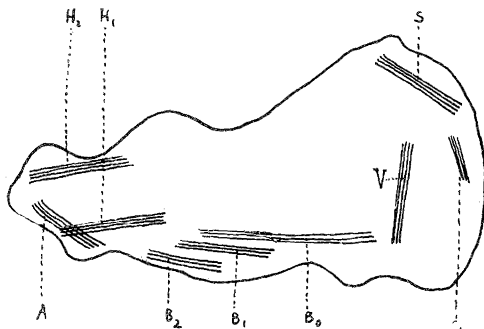
結 言

いっばんに、踵骨は体重を支え、墜落、飛降りなどによって、強烈な圧迫や衝撃を受け、しばしば骨折の原因を起こすものである。癩において、その踵骨は、骨の脆弱化に加えて、M. gastrocnemius, Achilles 腱などの長年月の索引、疼痛がないために加わる外力も手伝って、かなりの変形を来し、極端な場合には、骨折、骨の断裂、亀裂を生じていることがある。外力によることなく、自然に、あるいは歩行程度の軽い運動によって、変形、骨折を起こす事は、脊髄旁や脊髄前角炎などにまれに見られるほかは稀有のものであって、此処に報告する次第である。

症例とその説明

踵骨の骨梁は、図 1. に示すようになっていいる。癩の Röntgen 像において、骨梁がうすくなっている。石灰分消耗を示し、ときに骨梁は見分けがたい程度になっている。

図 1



さらに踵骨の後部が挙上されていて、H₁ が平行に走っている場合が多い。後部が挙上されるために自然に扁平足のような形になっている。

つぎにしばしば、扁平足や骨の脆弱化、足関節炎などの炎症の波及、小さな傷の治癒の遅延などから、足

穿孔症を起こし、さらにこれが腐骨を起こしているのが見られる。

足穿孔症が長期間に渉るうちに、二次的感染を起こし、炎症々状を強度に伴っている場合が見られる。

骨折が起こっている場合には、断裂は H₁, H₂ の走向に従って起こっている。いわゆる鴨嘴骨折の形になっている。

さらに面白いのは、骨折、断裂が長年月に渉り、骨の増殖により、二次的に癒合している状態が見られることである。

以下 Röntgen 像によって説明を加える。

図 2. は踵骨隆起の Achilles 腱附着部が索引されて、上方に伸長した状況を示している。

図 2



図 3. は、後部上方に索引され、扁平足の状況になっている。

図 3



図 4. は、索引されたために、隆起部の小骨折を起こし、2, 3の骨片が散在するのが見られる。

図 4

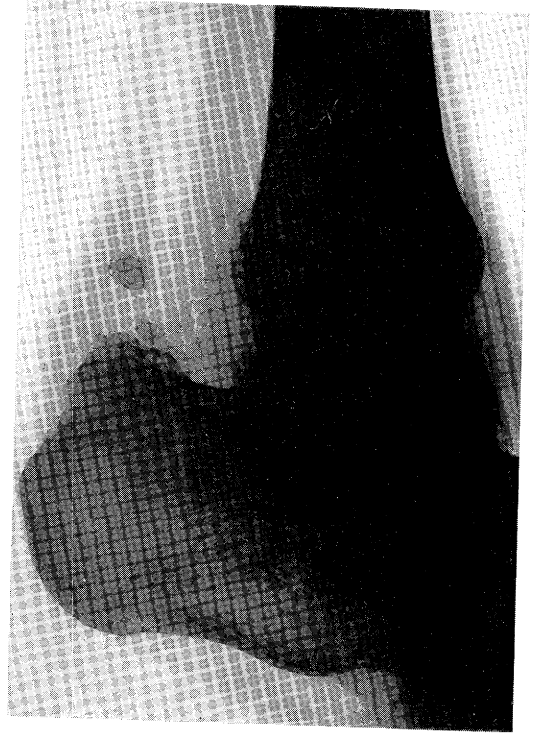


図 5. の Röntgen 像は、強度の扁平足となり、踵骨下面に、足穿孔症となっている状況が見られる。

図 5

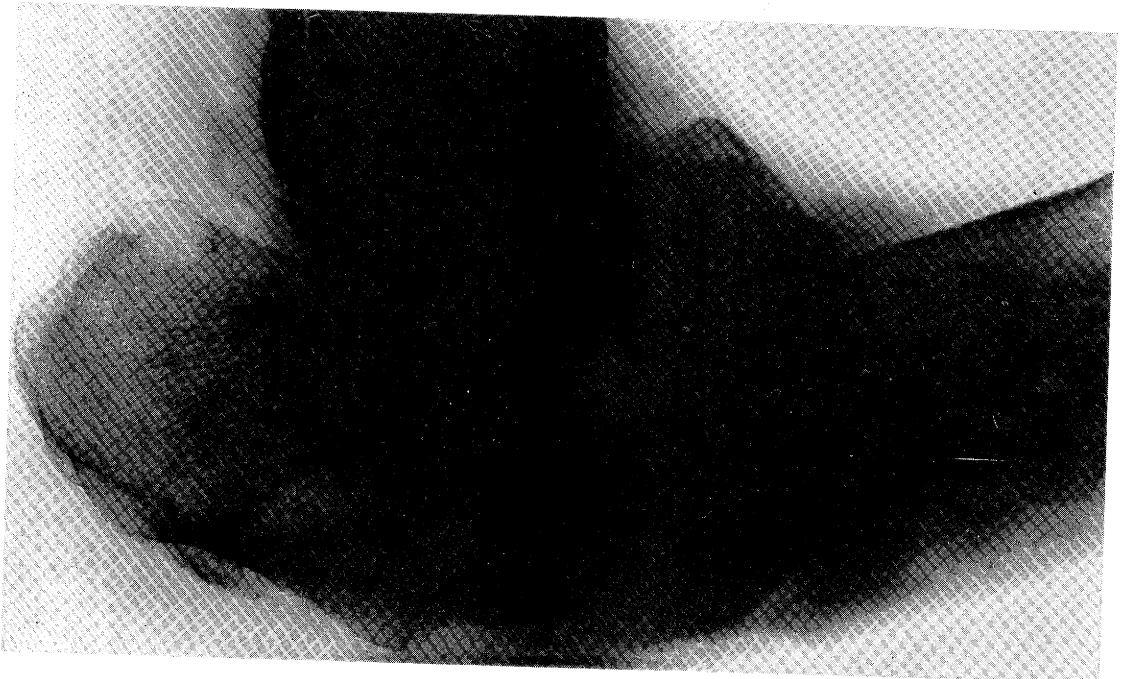


図 6. の像は、踵骨後半が極度に上方に索引され、一見折れ曲がったかの状況を示している。

図 6



図 7. の像も、図 6. と同様、折れ曲がった状況となり、足穿孔症による腐骨となった状態を示すものである。

図 7

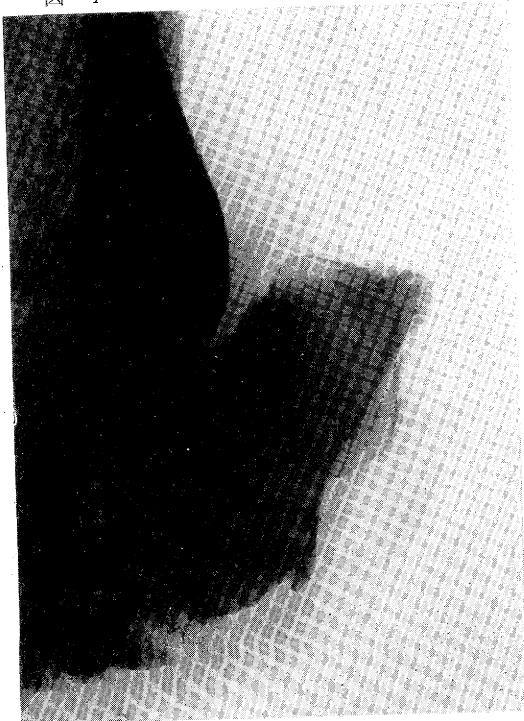


図 8. の Röntgen 像は、隆起部が骨折を起こし、不完全な鴨嘴骨折の状況を示している。

図 8

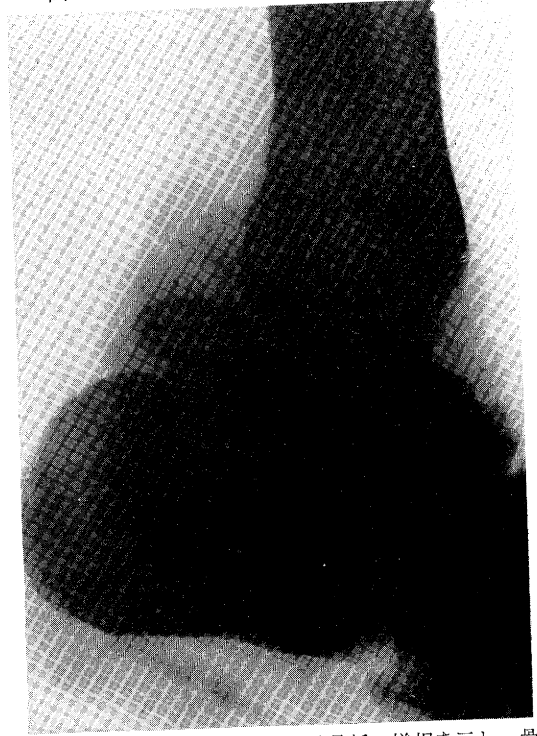


図 9. の像は、典型的な鴨嘴骨折の様相を示し、骨折の骨端間に、骨の増殖が見られる。

図 9

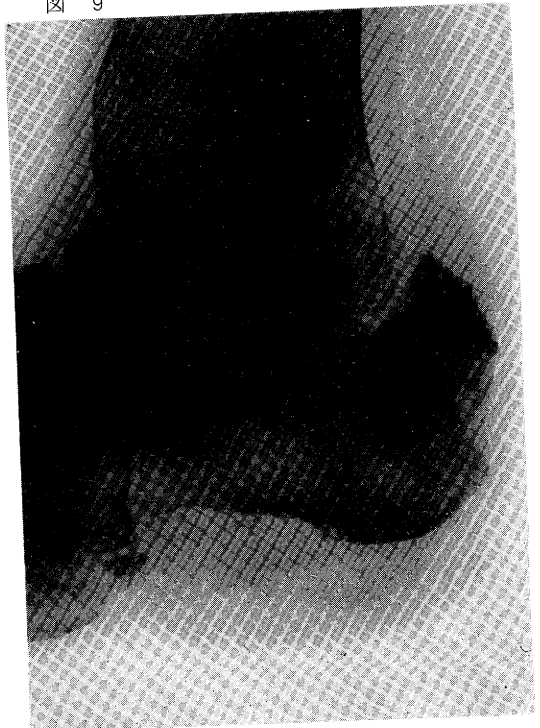


図10. は、高度に上部に向かって、踵骨後半が骨折を起し、さらに極度に変形を来たして、踵骨の原形を推察することが出来ない程度になっている。また骨梁はきわめてうすく、僅かに走向を認めるに過ぎない。

図 10



図 11



図11. 及び 図12. の Röntgen 像は、鴨嘴骨折が長年月の間に、二次的癒合を来たしている状態がみられる。図12. は、さらに骨折した遊離骨片が見られる。

図 12



以上11例中、男9、女2、結節型8神経型3である。症例が少ないので、男女比、結節型と神経型の比は、これからでは何とも云えない。

しかし神経癩にもある所から、神経癩の骨変化は、栄養神経の障害による骨の脆弱化と、足穿孔症による二次的感染によるものと思われる。

結節癩患者のものは、神経癩よりもむしろ軽度であるが、石灰分の消耗が見られる。さらに結節癩患者の足穿孔症において、癩菌がいっばんには証明されない所から、結節癩の踵骨変形も、いわゆる骨癩に罹患していたとは考えにくいのである。

したがって、結節癩においても、直接癩菌による慢性変化の結果、招来されたものではなくて、栄養神経の障害と、二次的感染による骨の脆弱化に、Achilles 腱の索引を伴って起こったものと考えられる。

治 療

いっばんに余り苦痛を訴えず、骨折の時期さえ気が付かない者が多く、Röntgen 線によって発見されることが普通で、陳旧なものが大部分であるので、治療は観血的には行なわない。診療を依頼したものは足穿孔症の治療と Gyps 固定して、安静を保たしめる。

文 献

- 1) 近 藤：跟骨鴨嘴骨折の1例。外科，10卷3号。
2) 河 津：跟骨々折，特にその骨折線に就て。外科，5卷1号。
-

Summary

Some deformations of Os calcis caused by lesion of the nerve system in the foot are often found in leprosy patients. The degree of the deformation depends upon pathological change in trabecula of the bone and tension of Achilles tendon. Moreover, this lesion is often increased, when there is an acute inflammation combined with mal perforant. The fact above-mentioned has been demonstrated by roentgenological examinations in 11 cases of leprosy.

(Author)

Received for publication August 10, 1960